



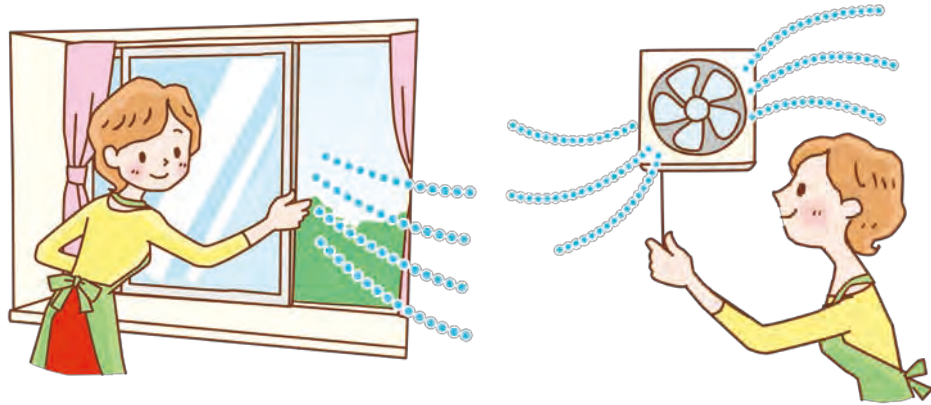
安心してガスをお使いいただくために、必ずお守りください

ガス機器をお使いの際は、換気を習慣に

換気が不十分だと新鮮な空気が不足し、不完全燃焼を起こし一酸化中毒で、死にいたる危険性があります。

必ず窓を開けるか、換気扇を回して換気をしましょう。

不完全燃焼防止装置が付いている機器でも、必ず換気をしてください。



一酸化炭素の人体に及ぼす影響

LPガス自体には毒性はありません。

しかし、不完全燃焼を起こすと人体に有害な一酸化炭素(CO)が多く発生します。一酸化炭素(CO)は、毒性がとても強く、少し吸い込んだだけでも頭痛・吐き気などがし、気が付いたときには動けず死にいたる危険性があります。

空気中の一酸化炭素濃度(CO(%))と中毒症状

CO(%)	呼吸時間および症状
0.04	1~2時間で前頭痛／ 2.5~3.5時間で後頭痛
0.16	20分で頭痛、めまい／2時間で致死
0.32	5~10分で頭痛、めまい／30分で致死
1.28	1~3分で死亡

もしものとき

- ガス臭いと感じたとき…… P.2
- 地震がおきたとき…… P.3
- ガスが出ないとき…… P.4

ガスの安全な使い方

- キッチン編…… P.5
- バスルーム編…… P.7
- リビング編…… P.8

資料編

- LPガス設備について…… P.9
- 特別点検制度について…… P.10
- ガスホースの接続方法…… P.11
- ガス機器の点検…… P.12
- 安全性の高いガス機器のご紹介…… P.13

ご紹介

- マルチガスのLPガス安全対策…… P.14

もしものとき

困ったときは迷わず裏表紙に記載の連絡先までご連絡ください。

ガス臭いと感じたとき

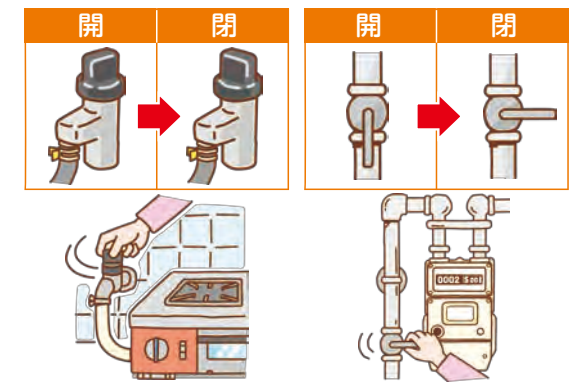
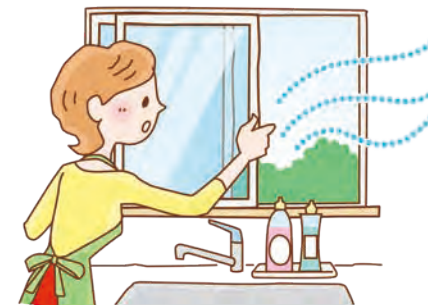
換気扇、電灯などのスイッチには絶対ふれないでください。
(火気は絶対使用しないでください。)



① 窓や戸を大きく開けてガスを外に追い出してください。

② すべてのガス栓やメーターガス栓を閉めてください。

※LPガスは空気より重いので、低いところに溜まったガスにもご注意ください。



①および②を実施して、裏表紙の販売店へご連絡いただき、屋外に避難してください。

ガス・CO警報器のすすめ

万一のガスもれ、あるいは不完全燃焼による一酸化炭素を検知した場合、光と音でお知らせいたします。

※ガス漏れ警報器、CO警報器それぞれ単体タイプとガス漏れ警報器とCO警報器が無線連動するタイプがあります。
※交換期限(5年)がきたらお取り替えください。



地震がおきたとき

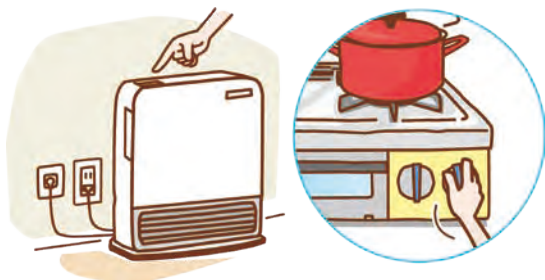
1 まずは身の安全を確保する。

まずは机の下に身を隠すなどして身の安全を確保してください。ガスを使用中に震度5相当以上の地震が起きたときはガスメーター（マイコンメーター）が自動的にガスをしゃ断します。ガスを使用していないときは、ガスをしゃ断しない機能になっています。



2 揺れがおさまってから、ガス機器の火を消してください。

※ガス栓(元栓)も閉めてください。
ガス機器を使用していた場合、ガス機器のスイッチを止めて、ガス栓を閉めてください。



地震のあと、ガスをふたたびご使用する場合

ガス臭いとき

- 窓や戸を開けて換気する。
- 屋外ガス容器のバルブを閉める。
- ※換気扇、電灯などのスイッチには絶対ふれないでください。(火気は絶対使用しないでください。)

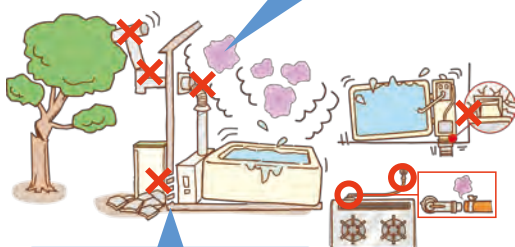
以上を速やかに行い、裏表紙の販売店へご連絡ください。



ガス臭くないとき

- ガス機器本体の変形・破損などの異常はありませんか？
- 煙突式など屋内外の給排気設備が外れる、凹む、塞がっているなどの異常はありませんか？
- ガス接続具(ゴム管等)は正しく接続されていますか？

排気筒(煙突)のはずれ、凹み、穴あきはありませんか？



給気口がふさがっていませんか？

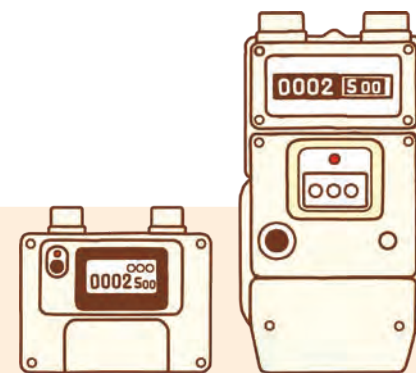
以上を確認し、元栓を開いてガスを使用してください。

ガスが出ないとき

1 マイコンメーターを確認する

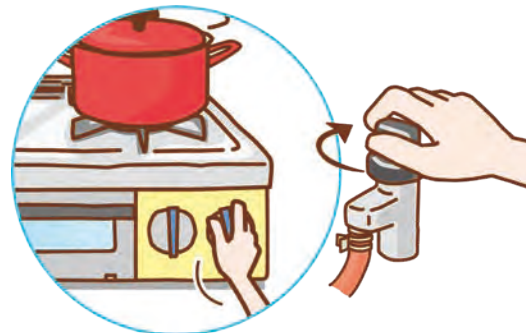
マイコンメーターとは

コンピューター制御機能を組み込んだ、ガスご使用時の安全を守るガスメーターです。非常時には、自動的にLPガスを遮断し、安全を確保します。



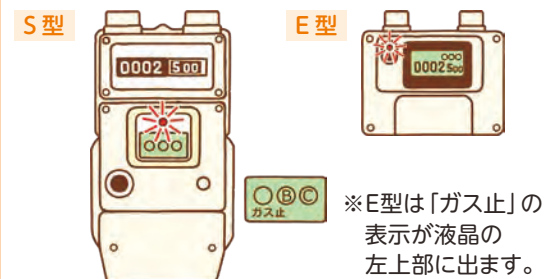
ガスメーターが止まった時の対処法

1 すべてのガス器具を止め、ガス栓を閉める

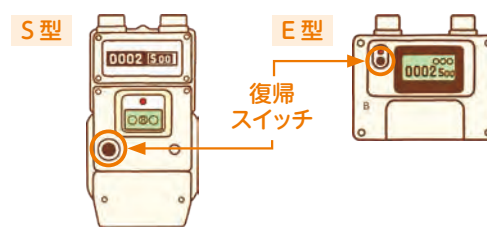


2 マイコンメーターを確認する

赤のランプが点滅し、下記のような表示が出ていれば感震遮断です。



3 復帰スイッチを押す



4 「ガス止」が消え、液晶の文字Ⓑ、Ⓒが点滅します。



- S型 点検の間60秒間お待ちください。
- E型 点検の間20秒間お待ちください。

5 液晶の文字Ⓑ、Ⓒが消えます。これで復帰完了です。



復帰完了

※上記の操作でもガスが使用できない時は、裏表紙の販売店までご連絡ください。

マンション・アパートの場合

一戸建ての場合

普段から
ガスメーターの位置を
確認してください



ガスの安全な使い方 キッチン編

ガスを使うときは“換気”を習慣に!! 換気扇を回すか、窓を開けましょう。

換気が不十分な場合、燃焼に必要な空気(酸素)が不足して不完全燃焼を起こし、**一酸化炭素中毒となる危険性があります。**

- 小型湯沸器は安全装置が付いていても必ず換気をしてお使いください。
- コンロや小型湯沸器が使用中に火が消えたら、再点火を繰り返さず、すぐにご使用を中止し、販売店またはメーカーまでご連絡ください。
- 換気扇が汚れていると換気能力が低下します。定期的に点検・清掃してください。



調理中はガス機器から離れない。 調理の途中で離れるときは必ず火を消しましょう。

天ぷらなどの揚げものを調理しているときやグリルを使用しているときに**その場を離れると、過熱に気づかず火災の原因になるおそれがあります。**

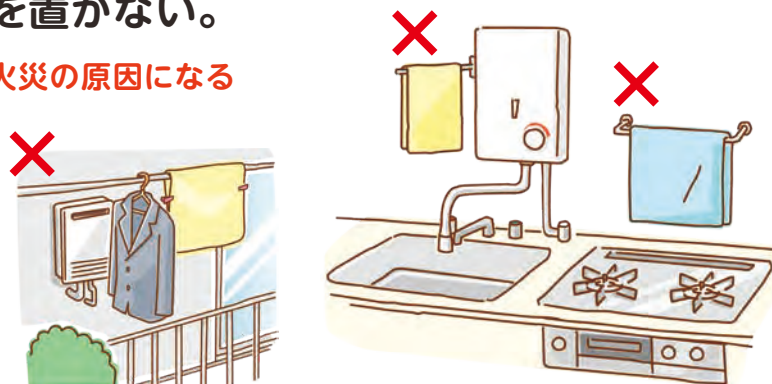
- 安全装置が付いていても、点火・消化は必ず目で確かめてください。
- 揚げもの調理は、必ず天ぷら油過熱防止装置(センサー)が付いている側のバーナーを使ってください。
- コンロを使用しているときは、着衣への着火にご注意ください。
- メーカー純正品以外の部品(ガスコンロ用省エネルギーなど)の使用は、不完全燃焼による一酸化炭素中毒を起こす原因となる場合がありますので、注意しましょう。



ガス機器の近くにキッチンペーパーやタオルなど 燃えやすいものを置かない。

炎や排気の熱で発火し、火災の原因になる**おそれがあります。**

- ガス機器は取扱説明書の記載に従い、周囲との離隔距離を正しくとってください。
- 屋外機器の排気口付近にも可燃物を置かないようにしてください。

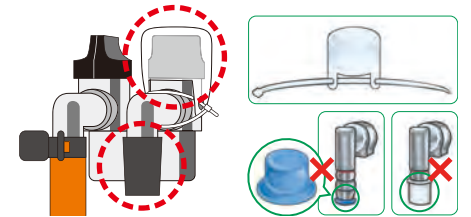


使っていないガスの元栓は、つまみが「閉」になっているか

使わないガス栓には、つまみを間違えてあけてしまわないよう**ガス栓カバーをつけておきましょう。**

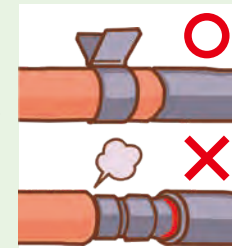
元栓による事故の8割が、ガス器具が接続されていない元栓を間違えて開けてしまう誤開放です。事故防止のため「閉栓カバー」を装着してください。

不使用の元栓の先に右のイラストのようなプラスチック製のキャップが付いているとガス漏れの原因となります。必ず取り外し、専用のキャップ(左写真)を装着してください。



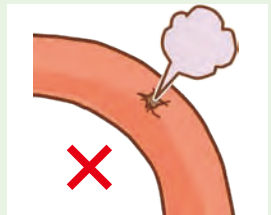
ホースバンドで しっかり固定していますか?

ガス漏れを防ぐため、必ずホースバンドをはめて**しっかり固定してください。**また、ガスホース(ゴム管)が赤い線までしっかり差し込まれていることを確認してください。



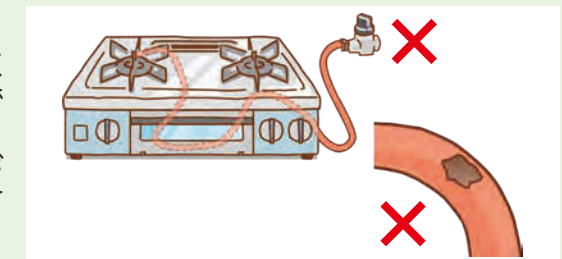
LPガス用ガスホースを使っていますか?

LPガス用のガスホース(ゴム管)はオレンジ色です。その他のホースを使用するとガス漏れします。絶対に使わないでください。また、ガスホースが固くなっていたり、ひび割れをしている場合は、直ちに交換してください。




ガスホースの長さは適切ですか?

ガスホース(ゴム管)は適切な長さでご使用ください。長すぎるとガス器具の高温部の熱で溶けてガス漏れする恐れがあります。また、ホースに油が付着しているとガス器具の火が引火する恐れがあるので、こまめにふき取ってください。



こんなときはすぐに連絡を!

炎		炎が安定しない	炎が黄色い	炎が赤い
操作		使用中に消火した 点火しにくい	爆発的に着火する 点火しない	火移りしにくい
器具		異常音をたてて燃える	ガスの臭いがする	運転中に排気ガスの臭いがする

- 裏表紙の販売店へご連絡ください。
- 点検・調査は無料で行いますが、修理や改善が必要な場合は有料となります。

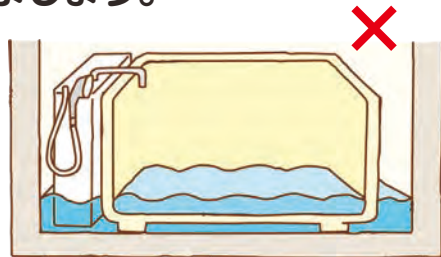
ガスの安全な使い方 バスルーム編

空だき(空の浴槽)に注意。 浴槽の水量を確かめてから点火しましょう。

湯沸しや追い焚きの際は、浴槽の水量が十分あることを確かめてから点火してください。水量が足りないまま、湯沸しや追い焚きを行うと、火災になるおそれがあります。

空焚き防止装置が付いていない機器はより安全な新しい機器への取り替えをおすすめします。

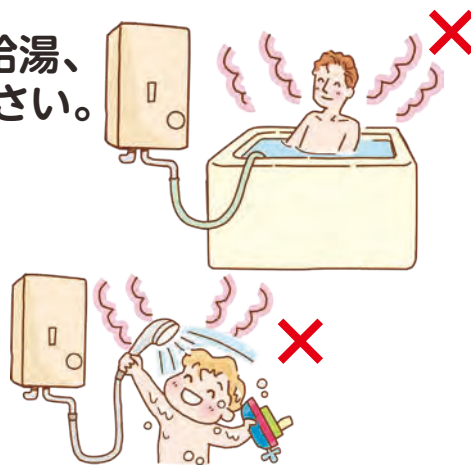
- 点火がうまく行われないと、点火操作により放出される少量のガスが、一時的に機器内部にたまります。
- そのまま繰り返し操作を行うと未燃ガスが徐々にたまるため、点火された際に異常着火し、衝撃で機器が変形するおそれがあります。
- ふろがまが水につかると点火しにくくなる場合もありますので、おふろの排水口は、こまめにお掃除してください。



小型湯沸器は、浴槽・洗濯機への給湯、シャワーや洗髪に使わないでください。

小型湯沸器を長時間連続使用すると、不完全燃焼を起こし、一酸化炭素中毒となるおそれがあります。

- 小型湯沸器は燃焼に必要な空気を多く使います。
- 長時間連続使用すると、換気を行っても燃焼に必要な空気が不足するおそれがありますので、絶対にお止めください。



衣類乾燥機で油分の付いた衣類を乾燥させないでください。

乾燥による熱風で酸化を起こし、自然発火による火災となるおそれがあります。

- 油分の付着した衣類・タオルなどの布類は、洗濯後でも油が完全に落ちない場合があります。
- 衣類によっては乾燥機が使用できないものもあります。ご使用になれる前に衣類の「取り扱い絵表示ラベル」をご確認ください。

油分の例

美容オイル(ボディオイル、エステ系のオイルなど)、食用油、機械油、動物系油、ドライクリーニング油、ベンジン、シンナー、ガソリン、樹脂(セルロース系)など



ガスの安全な使い方 リビング編

暖房器を使用中は1時間に1~2回程度、換気をしましょう。

換気が不十分だと室内の酸素が減少し、不完全燃焼による一酸化炭素中毒となるおそれがあります。



ご使用にならずに長い間収納されていた暖房機器は、部品の劣化、ほこり等の目詰まりにより、炎があふれて火災事故をおこす原因となったり、不完全燃焼による一酸化炭素中毒をおこし、死亡事故につながる場合があります。ご使用前の点検整備(有償)をおすすめします。メーカーまたは裏面の販売店にご連絡ください。

暖房器の近くに衣類などの燃えやすいものやスプレー缶を置かないでください。温風を長時間直接体にあてないでください。

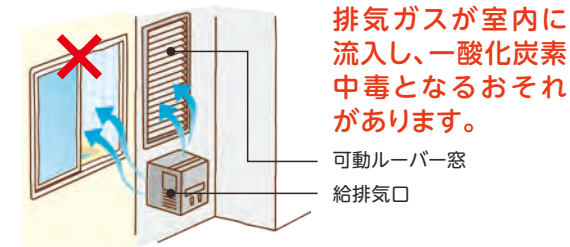
燃えやすいものやスプレー缶が高温になり、発火・爆発するおそれがあります。また、温風を長時間直接体にあてると低温やけどになるおそれがあります。

- 特に小さなお子さまなど、自分の意思で動けない方がいるご家庭では、長時間温風があたる場所で就寝させないように注意してください。



ガスの安全な使い方(キッチン、バスルーム、リビング共通)

ガス機器・給排気口の付近に窓がある場合、ガス機器使用するときは窓を閉めましょう。



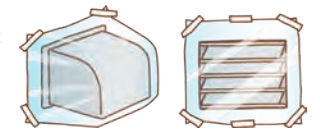
排気ガスが室内に流入し、一酸化炭素中毒となるおそれがあります。

可動ルーバー窓
給排気口

ガス機器・給排気設備をビニールシートなどで囲われているときは、機器を使用しないでください。

不完全燃焼を起こす原因になります。

※増改築工事などで排気筒を取り外したり、塗装工事などで給排気設備を覆われることがあります。



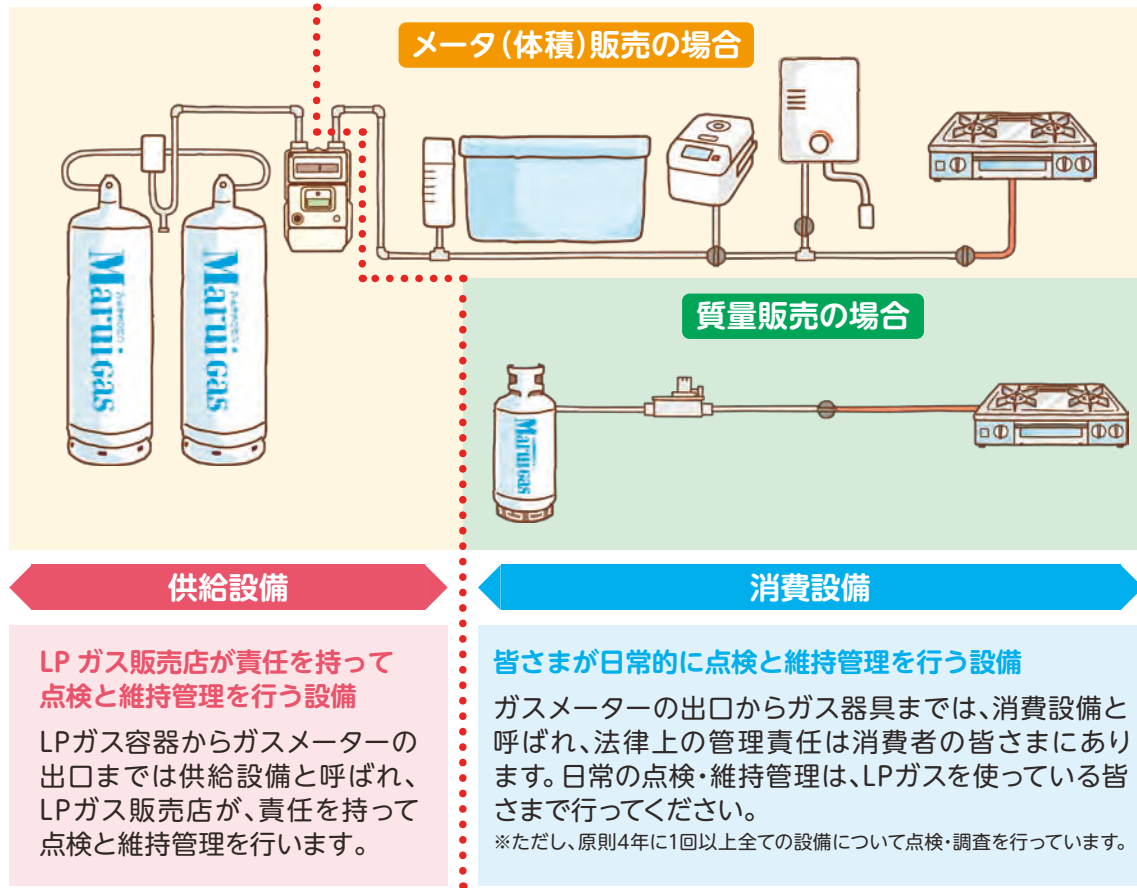
ガス機器のまわりに物を置いたり、波板などで囲わないでください。

不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災になるおそれがあります。



LPガス設備について

LPガスの各設備は、法律により、皆さまが点検・維持管理を行う設備とLPガス販売店が点検・維持管理を行う設備に分かれています。



安全・安心のための点検・調査にご協力ください。

皆さまの安全・安心のため、保安期間としての認定を受けたLPガス販売店または販売店から依頼を受けた保安機関が、法律(液化石油ガス法)にもとづき、次のような点検・調査を行います。ご協力をお願いいたします。

① 容器交換のつど

LPガス容器・調整器・容器バルブ・ガス供給管などの外観点検。

② 1年に1回以上

地下室などの配管からのガスもれ調査など。

③ 原則として4年に1回以上

調整器の機能点検、配管のガスもれ調査、ガス機器や給排気設備などの調査など、ガス設備全般についての点検・調査。

※点検・調査の結果、改善を指摘された設備については、改善や機器の交換などを行ってください。

特別点検制度について

「特定保守製品」をご購入されたお客さまは、「長期使用製品安全点検制度」の対象となります。

製品が古くなると部品等が劣化(経年劣化)し、火災や死亡事故を起こすおそれがあります。経済産業省の「長期使用製品安全点検制度」では、消費者自身による点検が難しく、経年劣化による重大事故のおそれが多い以下の製品を特定保守製品に指定しています。対象製品を購入した際は、所有者登録を行って下さい。登録すると適切な時期にメーカーから点検通知が届きますので、点検を受けましょう。

対象商品(特定保守製品) ※特定保守製品には、機器本体またはリモコンに「特定保守製品」と表示されています。

都市ガス・LPガス

- 屋内式ガス瞬間湯沸器
屋内に設置してあるガス瞬間湯沸器

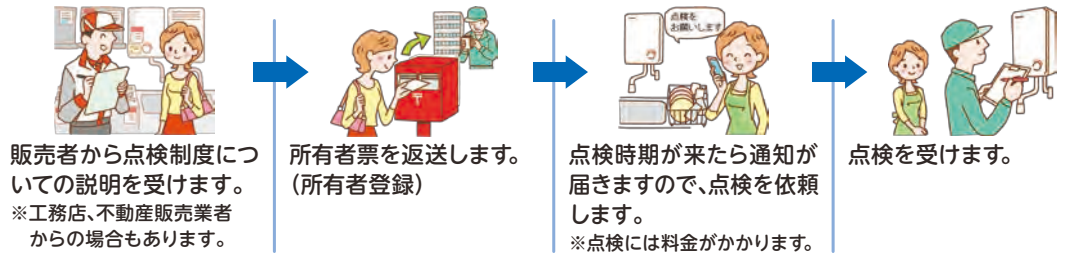
石油

- 石油給湯器
- 石油ふろがま
- FF式石油温風暖房機

電気

- ビルトイン式電気食器洗浄機
- 浴室用電気乾燥機

点検までの流れ



- 屋内に設置されているガス機器のほか、屋外に設置されている製品や平成21年4月1日より前に製造・輸入された対象製品についても、点検可能ですので、メーカーにお問い合わせください。(製品によっては、点検結果で整備が必要な場合に整備用部品がない場合があります)
- 賃貸住宅・アパートなどで製品を家主さまが設置・所有している場合には、家主さまが所有者登録・点検のお申し込みをしてください。
- 所有者登録をいただいた情報は、点検通知、リコールなどの製品安全に関するお知らせに使用いたします。
- 点検時期の通知を受けるためには、所有者情報の正確な登録が必要です。登録が済んでいない場合や変更が必要な場合には早めにメーカーへお知らせください。
- 所有者登録にご不明な点がございましたら、特定製造事業者(メーカー)へお尋ねください。
- ガス製品を安心して長くご使用いただくためにも、法定点検の他に定期的な点検をおすすめします。

特定製造事業者 連絡先

(株)ガスター 点検センター	0120-642-109	(株)パロマ お客様センター	0120-378-860
(株)世田谷製作所 営業部管理課	03-3707-5531	モリタ工業(株) サービス課	0120-446-252
(株)タイハイ 本社	0256-92-7788	リンナイ(株) 製品点検センター	0120-493-110
パーパス(株) 点検受付センター	0120-323-884	大阪ガス(株) お客様センター	0120-0-94817
(株)長府製作所 点検連絡窓口	0120-921-971	東京ガス(株) お客様センター	03-3344-9199
(株)ノーリツ コンタクトセンター	0120-911-026	東邦ガス(株) 特定保守製品点検センター	0120-872-909
(株)ハーマン 点検受付センター	0120-780-137		

上記以外のメーカーの場合：一般社団法人 日本ガス石油機器工業会 03-3252-6101

本制度のお知らせは、
経済産業省
ホームページで
ご覧いただけます

制度については

http://www.meti.go.jp/product_safety
もしくは
製品安全ガイド

検索

故障・災害時など

安全な使い方

安全な使い方

安全な使い方

設備・制度など

設備・制度など

故障・災害時など

安全な使い方

安全な使い方

安全な使い方

設備・制度など

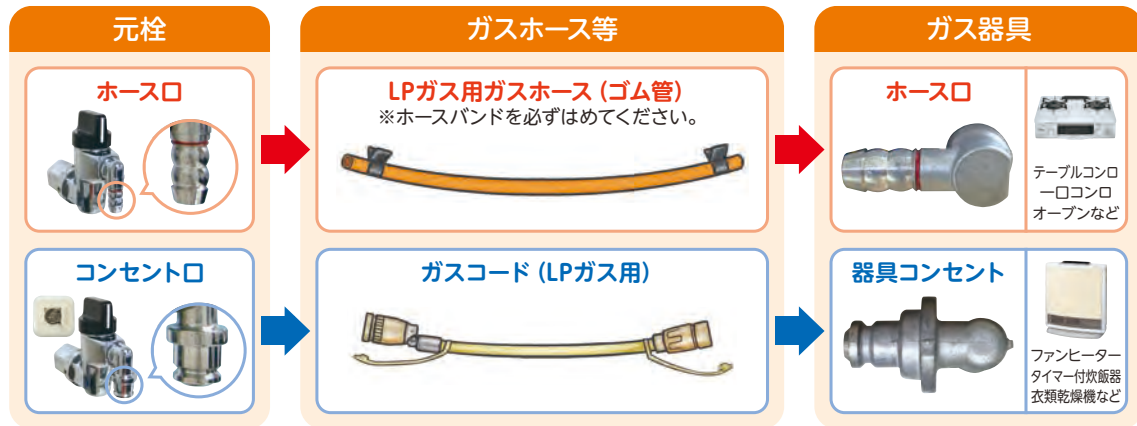
設備・制度など

ガスホースの接続方法

ガス機器を接続する
ガスホースの注意点

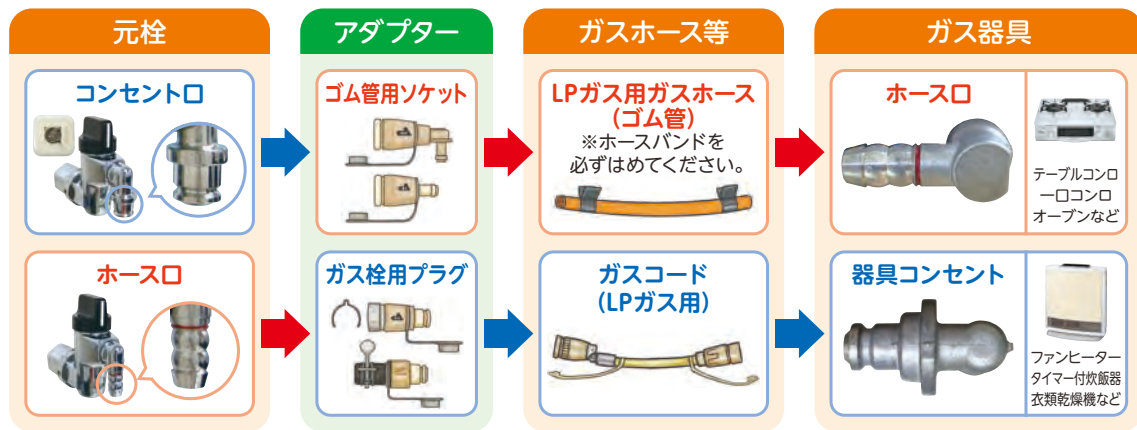
ガスの元栓には「ホース口」と「コンセント口」の2タイプ、
ガス器具には「ホース口」と「器具コンセント」の2タイプがあります。

元栓やガス器具の形状に合わないガスホースを使うと、ガス漏れや、火災などの大事故の原因となります。



元栓とガス器具の形状が異なる場合は、**アダプター**を使いましょう。

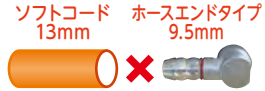
元栓とガス器具の組み合わせが上記と異なる場合は、元栓にアダプターを使用することで、接続が可能となります。



元栓とガス器具を接続する場合は、上記を参考にそれぞれの取扱説明書にしたがってください。
上記以外の接続方法につきましては、ガス器具メーカー又はガス販売事業者にお問い合わせください。

誤った接続による事故が発生しています

接続不可例 1 大きさ9.5mmのホースエンドタイプのテーブルコンロ接続口に、誤って大きさ13mmのソフトコードを接続したためガスもれが発生。テーブルコンロの火をつけた際、もれたガスに引火し接続具を焼損した。



接続不可例 2 テーブルコンロを使用する際に、ホースガス栓に誤ってゴム管用ソケットをつなげたソフトコードを接続していたため、ガスもれが発生。テーブルコンロ使用中に、もれたガスに引火し、接続具を焼損した。



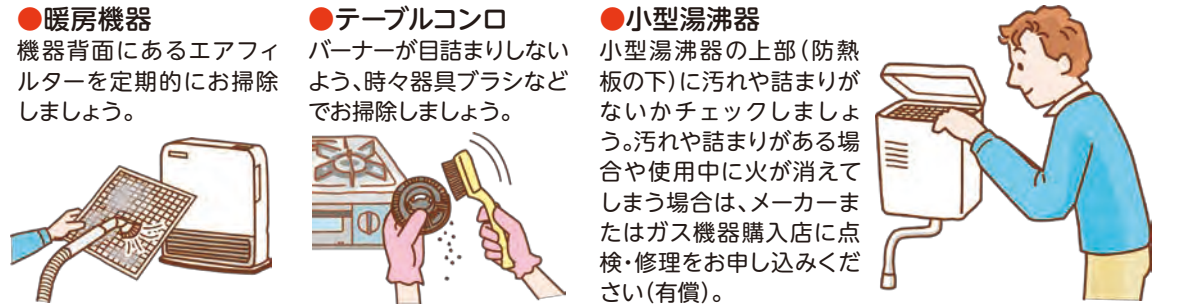
ガス機器の点検①

ガス機器は
定期的にお手入れを。

取扱説明書をよく読み、安全な使用や日常管理の方法を確認しましょう。
ガス機器や給排気設備は、ときどき清掃、点検しましょう。

ガス機器ご使用時に不快な臭い、炎のあふれ、機器本体の異常な過熱、異音、排気口の周辺がすすけているなどがあれば、ただちに使用を中止し、メーカーまたはガス機器購入店に点検・修理をお申し込みください。不完全燃焼による一酸化炭素中毒または異常燃焼による火災の原因となるおそれがあります。

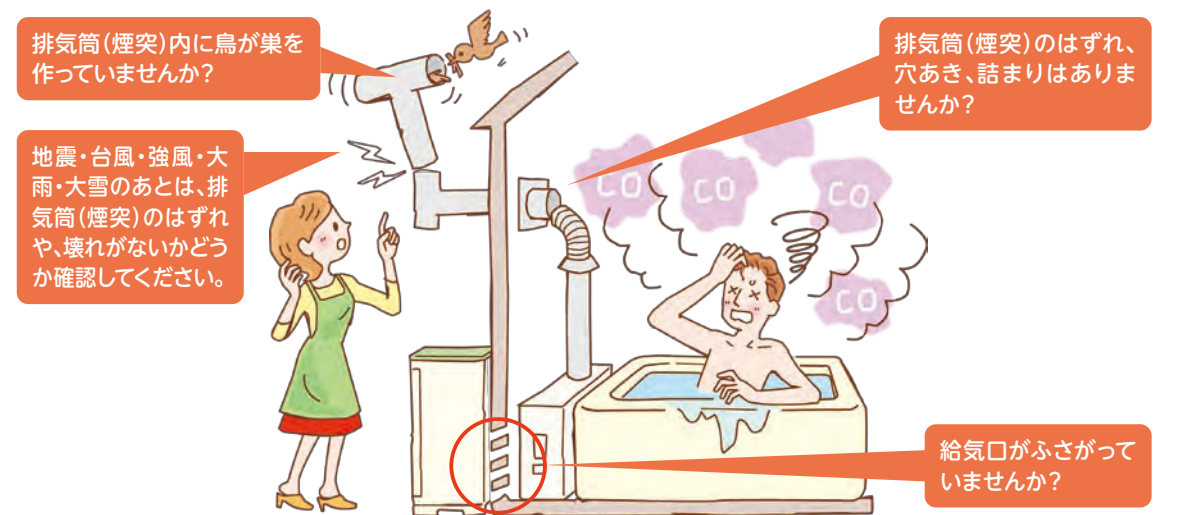
- 暖房機器**
機器背面にあるエアフィルターを定期的にお掃除しましょう。
- テーブルコンロ**
バーナーが目詰まりしないよう、時々器具ブラシなどでお掃除しましょう。
- 小型湯沸器**
小型湯沸器の上部(防熱板の下)に汚れや詰まりがないかチェックしましょう。汚れや詰まりがある場合や使用中に火が消えてしまう場合は、メーカーまたはガス機器購入店に点検・修理をお申し込みください(有償)。



ガス機器の点検②

排気筒(煙突)

いずれも放置しておくと、ガス機器が正常に燃焼しない、あるいは排気が室内に流入するなどして、一酸化炭素中毒の原因となるおそれがあります。



排気筒(煙突)内に鳥が巣を作っていませんか?

排気筒(煙突)のはずれ、穴あき、詰まりはありませんか?

地震・台風・強風・大雨・大雪のあとは、排気筒(煙突)のはずれや、壊れないかどうか確認してください。

給気口がふさがっていませんか?

- 異常を見つけた場合は、ただちに使用を中止し、ガス機器購入店に点検・修理をお申し込みください。
- 隠ぺい部に設置されている排気筒(煙突)も点検してください。腐食により穴が開いたりはずれたりすると、排気が室内に入り込み、一酸化炭素中毒の原因となるおそれがあります。

もしものとき
故障・災害時など

キッチン編
安全な使い方

バスルーム編
安全な使い方

リビング編
安全な使い方

資料編
設備・制度など

もしものとき
故障・災害時など

キッチン編
安全な使い方

バスルーム編
安全な使い方

リビング編
安全な使い方

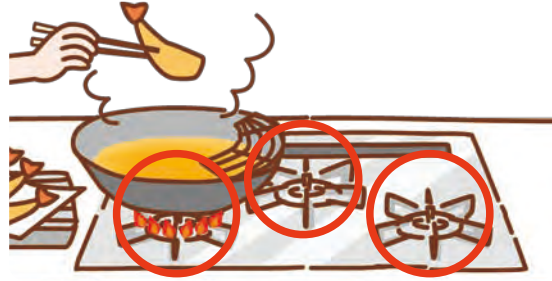
資料編
設備・制度など

安全性の高いガス機器のご紹介

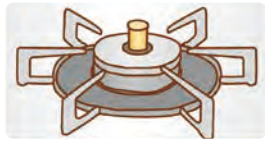
より安全性能の高い機器へのお取り替えをおすすめします。

センサーコンロ

現在製造されているコンロは、すべてのバーナーに、煮こぼれや点火ミスなどで火が消えたときにガスをストップする立ち消え安全装置、天ぷら油の温度が約250℃になると、ガスを止め火災を防止する調理油過熱防止装置、消し忘れ消火、早切れ防止機能など、安全便利機能を搭載しています。



Si 全ロセンサー搭載
「センサー」で
天ぷら油の過熱などを防止



天ぷら油火災が起こった場合

消火器で消してください!

ただし消火器がない場合は、応急処置として水を含んだ大きなタオルで鍋をおおうような方法もあります。

※水は絶対にかけないでください。
※やけどにご注意ください。

水は絶対に
かけないで!



天ぷらなど揚げものの調理をするときはセンサーがついているバーナー(「あげルック」)、「揚げもの用」のマークのあるコンロは、そちら側をお使いください。



油の温度が約370℃まであがると火種がなくても自然に発火します。

不完全燃焼防止装置付※1

●ファンヒーター

フィルターの目詰まりなどで新鮮な空気が不足したら、異常を検知し自動的にガスを止めます。

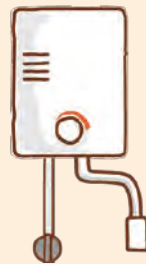
●小型湯沸器

ほこりによる熱交換器の目詰まりなどがあつたとき、炎の異常を検知し、自動的にガスを止めます。

※不完全燃焼防止装置付の機器でも、お使いになるときは必ず換気してください。



ガスファンヒーター



ガス給湯器

金網ストーブはファンヒーターへのお取り替えをおすすめします

●赤熱面(金網部分)に変形や、やぶれなどの異常がある場合は、不完全燃焼を起こし、一酸化炭素(CO)中毒の原因となるおそれがあります。

●不完全燃焼防止装置付のファンヒーターなどへお取り替えください。

●暖房シーズン前に点検をおすすめします。

お取り替えをおすすめするストーブ例

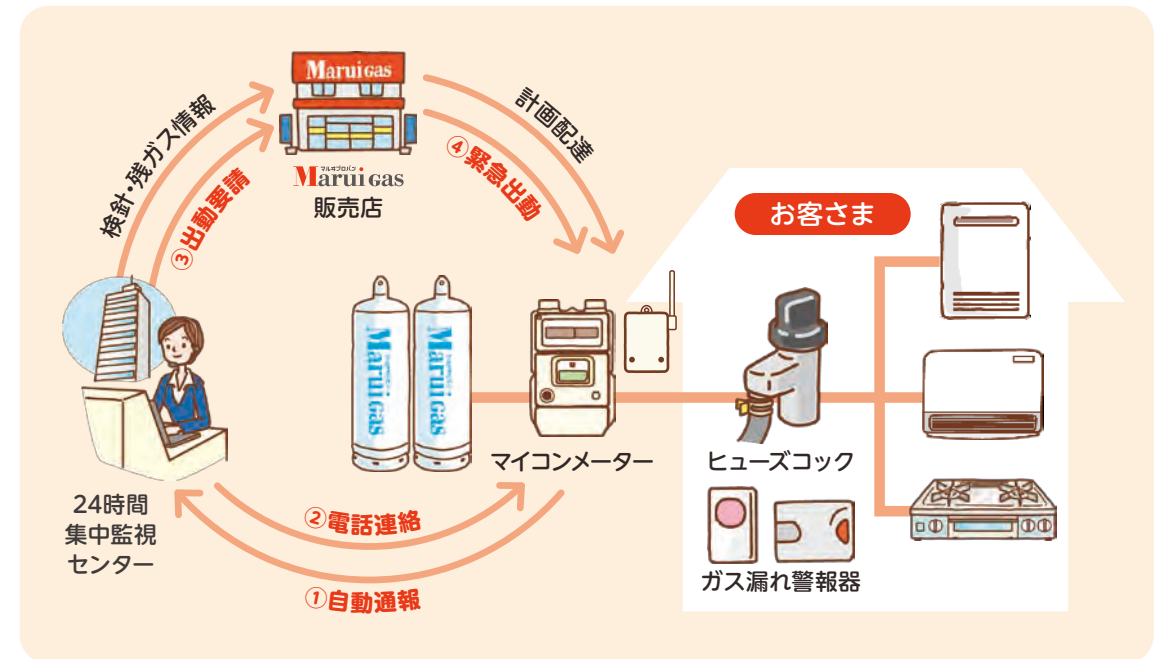


マルキガスのLPガス安全対策

24時間365日 ガスの安全を見守るテレセーフシステム

お客さまにより安心してガスをお使いいただくためにLPガス集中監視システム「テレセーフ」の導入を進めています。テレセーフはお客さま宅のガスメーターに通信装置を取り付け、メーターが発するさまざまな情報を集中監視センターでキャッチし安全を見守るシステムです。たとえばガス機器をうっかり消し忘れてガスを

長時間使用したとき、気付かぬうちにホースが外れてガスが漏れたとき、ガスメーターが異常と判断してガスを遮断します。その情報が監視センターに入り次第、お客さまに電話連絡をして状況を確認、適切な対処方法をご説明いたします。緊急の場合には、ガス販売店が出勤し緊急対応を行います。



二重三重の安全対策

ヒューズガス栓

ガスの異常流出を自動的に止めます。



張力式高圧ホース

地震や台風などで容器が転倒し、高圧ホースに所定以上の張力が加わった場合にガスの放出を防止します。



マイコンメーター

長時間ガスを使用したときや大量のガスが流れたとき、地震など大きな揺れを感じたときにガスを止めます。



※ガスの漏れが少ない場合は、ガスが漏れても止めない場合があります。※寒くなる季節の変わり目など、急にガスの使用量が増えた場合もガスが止まる場合があります。※とろ火使用の場合は、長時間使用してもガスは止まりません。※機器や消費量、同時使用台数などによりガスが止まる条件は変わります。※建物や地質の状態が震度5未満でもガスが止まる場合や、震度5以上でも止まらない場合があります。